

どんびま

2012年5月8日発行
発行者 花の湖農業小学校

タムシバ

「コブシの花がいっぱい咲く年は豊作になる」と言い伝えられている。

この辺りで一般にコブシと呼ばれている木は正確にはタムシバという。この辺りに自生のコブシはないという話を農小の宮下先生から聞いたときには正直がっかりした。虫歯を連想させる言葉の音も情けないし、大事にしてきたお宝が贗物と鑑定された気分であった。



しかし、幼い日に裏山の尾根を越えたところで、突然目の前に現れた白い鳥の群と見間違えた時の胸のときめきを忘れることはないし、春の山で田作りの季節を告げる風情を愛でる気持ちに変わることは無い。

そのコブシ、いやタムシバが今年は大異変である。花が極めて少ないのだ。

今年は何もかもが花の時期が狂っていて、まだまだと思っている内にわずかに咲いたタムシバの花を私は見過ごしてしまったようだ。タムシバの花を見ないまま田植えの時期を迎えている。夏の天気、秋の収穫が不安でならない。 (草)

5月授業日のご案内

- 日程 5月20日(日)
- 受付 9:00～9:30
- 始めの会 9:30～9:40
- 授業(畑仕事) 9:40～11:30
草取り・土寄せ・苗植えなど
- 昼食 11:30～13:00
- 授業(田植え) 13:00～15:00
田植え後バケツ稲の説明をして土・苗を配ります。
- 終わりの会 15:00～15:15
- 締め切り 5月15日(厳守)
- 問い合わせ・緊急連絡
TEL 0573-75-4417・090-5110-9362(山内總太郎)
- 服装 作業のできる服装
- 持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、買い物袋、お茶、箸、食器着替え(天気がよくても)
- 郷土料理 草餅、ぼた餅、みそ汁等
- ☆かぼちゃの苗は1本持参して下さい。それぞれの名札を立てて、かぼちゃ畑に植えます。
- ☆田植えは雨が降ってもやります。天気が良くても泥んこになります。
- ☆バケツ稲用の土を配ります。10リットル位のバケツをお持ち下さい。

～とくちゃんの農小レポート～

農小運動会は小雨決行 2G優勝

気候変動のお陰か？例年ですと農小授業日は葉桜の時期ですが、今年は何年ぶりかで満開の桜のもとでの運動会となり、午前中に終了いたしました。

- 1 午前の授業。 ごぼう、大根の種まき。キャベツ、白菜、ブロッコリー、サニーレタス、ねぎ、下仁田ねぎ等の苗の植え付け。
雨が降ると畑に入れないとの心配から、朝の会の始まる前に順次来た人から畑に行き作業を行いました。
- 2 持ち帰り。プランターと土とレタス苗。南瓜の種とポット。ジャンボ南瓜の種。
- 3 運動会。 雨に備えて3か所ほど室内会場を確保しましたが、午前中は大丈夫だろうと云うことで急きょ椀の湖に移動し、オートキャンプ場の広場を借りて小雨の中で決行されました。なるべく親子で楽しめる内容を企画しましたが、普段あまり身体を動かしていないお父さん、お母さん達にとっては辛い？時間だったかも・・・。
グループ対抗とし、競技者は一番参加者の多いグループの人数に合わせました。優勝賞品はニューヨーク（入浴）チケット（オートキャンプ場）でした。

競技種目

- 1 なわとび。 1グループで5人のチームを3組作り、それぞれが2回ずつ飛んで、回数のトータルで順位を決めます。0回も何組もありました。
 - 2 お猿の籠や。 大人が担いだ竹竿に子供がぶら下がるリレー。
 - 3 パン食い競争。この競技は点数には入りませんが熱がこもりました。
5・6年生、3・4年生、1・2年生と生徒のあとは、未就学児童達にも参加してもらい、そのあとはお爺ちゃん、お婆ちゃんや先生達も参加して頂きました。パンの中身が気になった生徒も有り交換要求？もあったようです。
 - 4 ボール送り。 ドッジボールを使い、頭の上から受けた人は股の間から渡すゲームで、15人の選手の最後はポストを廻って最初の位置に戻り、最初からボールを送る、を4回くり返します。
 - 5 綱引き。 各グループ15人編成で場所を変えて2回引き合います。2回で勝負が付かず3回に渡って決めたのが2組もありました。トーナメント方式で行いましたので、くじ運も少しはあったのかな？・・・
1G対3G=1G, 2G対4G=2G, 4G対5G=5Gで3位決定。
1G対2Gによる決戦は2グループの勝で、結果逆転優勝が決まりました。
- 4 昼食。竹の子（地元）ご飯の弁当。茹で卵、唐揚げ、和え菜、カップゼリー。
 - 5 得点成績は次の通り（1位5点～以下1点下がり。綱引きは倍点）

競技種目	1G	2G	3G	4G	5G
なわとび	5位1点	3位3点	1位5点	4位2点	2位4点
お猿の籠や	3位3点	2位4点	4位2点	5位1点	1位5点
ボール送り	1位5点	3位3点	2位4点	4位2点	5位1点
綱引き	2位8点	1位10点	5位2点	4位4点	3位6点
順位と得点	準優勝17点	優勝20点	4位13点	5位9点	3位16点

～安保兄の百姓ぼなし～

久しぶりにツバメが来た

あぼ兄の集落でも田植えの準備作業の真っ最中である。

トラクターに乗って代かきをしていると、作業中の田にツバメがやってくる。エンジンの音などおかまいなして、巣作りの泥を採りにくるのだ。空中での虫捕りも水面すれすれでの虫捕りも見事なものだ。時には体の大きさが数倍はある鳥との空中戦を見ることがある。渡りの洗礼を受けているだけあって、いつもツバメが大きな鳥を追い立てている。

ツバメは2羽おそろいで巣作りし、産卵してしばらくすると3、4羽ふ化する。巣の縁に口ばかり大きな頭が並んで、親鳥の採ってくるエサ(虫)を待つ姿には笑ってしまう。日が経ち、大きくなり羽毛が整うと巣立ち、家の前で飛行訓練を始める。ツバメのいる情景は農作業を楽しくしてくれる初夏の風物詩である。

昔、あぼ兄の家では玄関を入ったところにツバメがきまって巣をかけたものだ。昼間は戸を少し開けておくか、障子の最上段の一マスを取り取ってツバメの出入り口を確保したものだ。人が一番出入りするところに巣を作るのは、ツバメにとっては野性の天敵から身を守るためか。人間にとっては一番近くの自然であって、家族の一員のようにも思い、ツバメの来る日を待ったものだった。しかし何回かの改築で、家の中には巣が作れなくなってきた。そうかといって、軒下や外壁に巣を掛けたのを見たことがない。あぼ兄の家にツバメが来なくなって久しかった。

野生種の絶滅後、放鳥されたトキの子育てが新聞のトップ記事にのったのを読むにつけても、その他の小動物なども目にふれないところで変化していると思われる。昨今、様々な環境の変化で、鳥や小動物たちも住み難くなってか、あたり前に思っていた姿や情景を見なくなった。

気にしていたからか、ヒバリを久しぶりに見た。空に舞うあの高さ、あの声、急降下するとサーッと横に走る。巣作り子育てのため天敵から身を守る知恵だという。そのヒバリも田植えの時期が変わってレンゲ畑がなくなるなど、巣作りの場所がなくなったようで見かけることが少なくなった。

キジも思わぬところで巣作りをしていることがある。何年か前、隣の人が草刈をしていて草刈機でキジを切ってしまったことがあった。ことさら母性愛の強いと言われるキジは卵を温めていてエンジン音にも逃げずにいたのだ。又、あぼ兄はハウスの間の草刈をしていたところキジが急に飛び立った。キジは巣に卵を残したまま帰って来なかった。あぼ兄はキジに申し訳ないことをしたと思ったものだ。

今、木々はいっせいに芽吹き、杉・桧の間にうすきみどりの落葉樹が美しく彩っている。生き物がいっせいに活気付く、新しい生命が生れる季節だ。

あぼ兄の隠れ家の玄関先にある樹齢40年の藤は、建前の折に樹は小さくしたが毎年白い花房が溢れんばかりに咲く。その蜜を目当てに今年はクマンバチとも見紛う大きな蜂がいっぱい集っている。目の前を飛び交うその羽音に生命の勢いを見た。

今年は久しぶりにツバメがやって来た。その場所は作業所兼休憩所である。間口6m、高さ2.5mの内側が気に入ったようである。2羽のツバメの特有の鳴き声は、此処に巣をかけたい、ヘビやネズミは心配ないかと問いかけているように聞こえる。ただ、その場所は風雨を防ぐビニールカーテンを吊るす2本のワイヤーの上だ。もっといい場所もあるのと思って見ているが、そこに居着いて10日になる。

その近くに板切れで台を作ってやろうかとも思ってみたが、果たして気に入ってくれるか心配だ。反って不審をもたれてサヨナラになるではやらない方が良くとすっかり迷っているあぼ兄である。

～かなちゃんの虫日記～

イネは 田んぼ^{なか}の中で たくさんの生きもの^い にかこまれて^{そだ}育ちます。
 害虫^{がいちゅう}に たべられても 天敵^{てんてき}もいるので 大丈夫^{だいじょうぶ}。

田んぼの食物連鎖 (たべる・たべられるの 関係)

